

進路だより



夏休みに向けて



今週金曜日から、中学校最後の夏休みが始まります。30日間という長い休みを有意義に過ごすことは、受験に向けてとても大切なことです。次のことに気をつけて、過ごしましょう。

1 生活リズム

- ・夜遅くまで勉強して昼夜逆転し、生活リズムが乱れると、体調を崩しやすくなります。深夜の勉強はほどほどにし、朝、きちんと起きるようにしましょう。

2 学習内容

- ・前期末テスト対策と学力テスト総合Aの対策を両立できるように、やりとり帳とスプレッドシートを活用しましょう。
- ・「受験勉強」は新しいことを勉強するわけではありません。今まで学習してきた内容がどのくらい理解できているかを確認する学習になります。自分が理解できていないのはどの部分なのか、何を重点的に学習しなければならないのかを自覚して取り組みましょう。
- ・塾の講習会などに参加するにしても、自分で学習するにしても、「決めたことをやり切る」ことができた人が成果を上げています。最後まで「やり切る」ように頑張りましょう。

3 健康管理

- ・暑いからといって冷房の使いすぎや、冷たい飲み物のとりすぎなどで体調を崩さないように気をつけましょう。
- ・適度に運動し、三食きちんと食べて、体力をつけましょう。ここからは気力と体力勝負です。
- ・休み中には人の多く集まる所に行くこともあるかと思いますが、うがい手洗いをしっかりし、必要に応じてマスクも着用しながら感染予防に努めましょう。

2学期が始まってすぐ、8月27日(火)に前期末テストがあります。前期の成績に大きく関わる大切なテストで、その結果は受験に大きく影響します。志望校を決定する11月下旬に悔しい思いをすることのないように、暑さや、自分の甘さや弱さに負けることなく、夏休みに十分な準備をしましょう。

また、15日後の9月11日(水)には学力テスト総合Aが行われます。前期末テスト対策だけでなく、こちらの対策も入試での学力をつけるために必要です。

大変に思うかもしれませんが、受験勉強をする期間は長距離マラソンと一緒です。ペース作りをし、体調を自分で管理することは、最大の難敵「不安」に打ち勝つ最大の自信につながります。この夏休みを、皆さんが有意義に過ごせるよう応援しています。

ただし、たとえ勉強が大切な夏とはいえ、ONとOFFを上手に使い分け、家族との時間なども大切にしてほしいものです。あせらず、あわてず、1日1日を大切に。

「私学ナビ」という、私立高校についての情報をまとめた冊子を配付します。大切にっておき、私立高校を選ぶときの参考にするとよいでしょう。



推薦入試制度について

受検（受験）制度の一つに、推薦入試制度があります。推薦入試制度には「自己推薦」と「学校推薦」があります。入試の方法の一つとして推薦制度を考えている場合、今から準備することが大切です。

公立高校の自己推薦について

①出願資格 出願する高校の「**入学者の受入れに関する方針等**」（スクールポリシー）に合うと考える生徒

※「入学者の受入れに関する方針等」は、道立高校なら北海道教育委員会の、市立高校なら札幌市教育委員会のHPに公表されています。

※出願資格に成績の基準はありませんが、**合否は学習点（ランク）も含めて総合的に判断**されます。

自己推薦書には、中学校でのそれまでの自分の努力や成果とその高校で学びたいことを具体的に書く必要があります。

②必要な書類 入学願書の他に、出願者の自筆の「**自己推薦書**」が必要です。

③日程 11月中旬 第4回進路希望調査提出時に自己推薦希望の**最終決定**

12月中旬 公立願書の中学校メ切（一般受検と同じ） **自己推薦書の下書き完了**

1月15日（水）**自己推薦書の清書提出**

2月10日（月）**推薦入学面接日**（例年1週間程度で結果が連絡されます。）

2月20日前後 入学確約書（合格の場合）または、再出願書（不合格の場合）の提出

3月4日（火）一般入試 学力検査日（**再出願の場合、受検しなくてはなりません。**）

④注意しなければならないこと

- ・公立高校の場合、一般出願では倍率が発表になった後、一度だけ出願する高校の変更が認められていますが、**推薦出願の場合は高校の変更は認められていません。**
- ・不合格の場合は、一般入試に再出願できます。その際、当初出願した課程・学科と関わりなく再出願できます。（ただし、結果が分かってから再出願までの期間はとても短いです。）
- ・推薦入試で合格した場合は、**必ず入学しなければなりません。**
- ・公立高校では、**入試当日（面接）欠席した場合や、合格したのに入学を辞退した場合は、再出願や2次募集の出願はできません。**
- ・日程を見ても分かるとおり、**推薦入試で内定とならなかった場合、すぐに気持ちを切り替えて、学力検査を受けなければなりません。一昨年に自己推薦になってから、内定とならない人数は大きく増加しています。**推薦入試の準備と同時に、テスト勉強を進めている必要があります。

私立高校の推薦について

私立高校の推薦制度は高校によって違います。自己推薦と学校推薦がありますが、学校推薦の場合、まず中学校の推薦委員会によって、**丘珠中学校の推薦基準にそって審査**されます。その審査を通して初めて推薦受験をする資格が得られます。中学校長の推薦によって入学するということは、推薦生徒だという看板を背負って高校3年間を過ごすことであり、学習面や生活面、諸活動において、一般生徒以上の活躍が要求されます。中学校ではそれができる生徒かどうか審査する必要があります。日程は公立の自己推薦よりやや早く、**11月8日（金）が中学校への申し出締切**になります。

丘珠中学校推薦委員会の基準は以下の通りです。

- ①**出願する動機、及び理由が明確**であり、当該先を第一志望とする
- ②当該学科や職種における**興味、関心、及び意欲**を有する
- ③**推薦を受けるにふさわしい学校生活**を送っている
- ④志望した学校に**3年間在籍し、卒業する意思**が固い。
- ⑤原則として、学習・生活行動面で次の項目に該当しない

- ・3学年において、学力の下降が著しい・正当な理由以外での欠席、遅刻、早退の回数が多い
- ・授業の妨害、逃避を行った・学校の決まりを守れない・その他、生活行動面で問題がある

※推薦決定後に、推薦基準を満たさなくなった場合は推薦を取り消す。

これらの基準にあてはまっ
たうえで、受験する高校の示
す成績基準（ランク）に達して
いる必要があります。